

年間授業計画 新様式

高等学校 令和7年度（1学年用）教科		芸術（音楽） 科目 音楽Ⅰ	
教科：芸術（音楽）	科目：音楽Ⅰ	単位数：	1 単位
対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組			
教科担当者：（1～8組：前原 覚 ）			
使用教科書：（ 音楽Ⅰ Tuuti Plus トウッティ プラス （教育出版） ）			
教科 芸術（音楽）	の目標：		
【知識及び技能】	音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解すること。		
【思考力、判断力、表現力等】	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考えること。		
【学びに向かう力、人間性等】	「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、音楽的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞の活動の関連を図り、芸術音楽の特質を理解すると共に、創造的な表現を工夫したり、芸術の良さや美しさを深く味わうことができる生徒に育てる。		

科目 音楽Ⅰ	の目標：		
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すると共に、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。		自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらその良さや美しさ自ら味わって聴く、演奏することができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むと共に、感性を高め、音楽文化に親しみ音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			歌	器	創					
1 学 期	1. 校歌斉唱 【知】本校校歌の生い立ちや、歌詞の意味を理解し、これからの3年間の学校生活に期待を込め歌詞を覚えて歌い身に付ける。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持って工夫する。 【主】校歌に興味・関心を持ち、主体的に・協働的に取り組む。	★発声練習 1. 校歌の歩み 2. 校章との関わり 3. 音取り 4. 歌詞を暗譜して斉唱	○			【知】本校校歌の生い立ちや、歌詞の意味を理解し、これからの3年間の学校生活に期待を込め歌詞を覚えて歌えるか。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持っているか。 【主】校歌に興味・関心を持ち、主体的に・協働的に取り組める。	○	○	○	3
	2. 鑑賞 ミュージカル映画 【知】音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関り、及び様々な歌唱表現や器楽表現の特徴を理解する。 【思】ミュージカルの名曲から曲想、発声などを知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りを考える。 【主】作品が実話に基づくことから、第二次世界大戦における時代の考察や登場人物の心情に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。	★「サウンド・オブ・ミュージック」を通して、背景を理解して鑑賞し、名曲の生い立ちを理解し、そこから音楽の力、歌の力を感じ感想文をまとめる。 「エーデルワイス」のギターでの弾き語りを体験する。			○	【知】音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関り、及び様々な歌唱表現や器楽表現の特徴を理解しようとしている。 【思】ミュージカルの曲想、発声などを知覚し、それらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りを考えようとする。 【主】作品が実話に基づくことから、第二次世界大戦における時代の考察や登場人物の心情に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組める。	○	○	○	4
	3. 器楽 ギターの基本的な奏法とアンサンブル 【知】ギターを通して、楽器の音色やリズムとの関りについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な知識や他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、ギターで表している。【思】音色、リズムテクスチャを知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っている。 【主】音色の工夫やグレードごとに難易度が上がっていくことを自覚し、アンサンブルをしながら主体的・協働的にギターの学習活動に取り組む。	★グレードごとにギター奏法の演習 ①ギターの基本事項 奏法の違い 基礎練習 ②「蝶々」「喜びの歌」他	○	○		【知】ギターを通して、楽器の音色やリズムとの関りについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な知識や他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、ギターで表している。 【思】音色、リズムテクスチャを知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っている。 【主】音色の工夫やグレードごとに難易度が上がっていくことを自覚し、アンサンブルをしながら主体的・協働的にギターの学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	4
2 学 期	3. 器楽 ギターの基本的な奏法とアンサンブル 【知】ギターを通して、楽器の音色やリズムとの関りについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な知識や他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、ギターで表している。【思】音色、リズムテクスチャを知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っている。 【主】音色の工夫やグレードごとに難易度が上がっていくことを自覚し、アンサンブルをしながら主体的・協働的にギターの学習活動に取り組む。	★グレードごとにギター奏法の演習 ③「雨降り」、「メヌエット」などの ギター 2 重奏 ④「一週間」「エーデルワイス」などの弾き語り	○	○		【知】ギターを通して、楽器の音色やリズムとの関りについて理解する。創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な知識や他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、ギターで表している。 【思】音色、リズムテクスチャを知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように演奏するか表現意図を持っているか。 【主】音色の工夫やグレードごとに難易度が上がっていくことを自覚し、アンサンブルをしながら主体的・協働的にギターの学習活動に取り組もうとしているか。	○	○	○	8
	5. 合唱祭の練習・自由曲 【知】曲想と歌詞との関りについて理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をしている。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持っているか。 【主】合唱曲に興味・関心を持ち、主体的に・協働的にアンサンブルに取り組む。	①課題曲「小川高校校歌」の 混声四部合唱 ②自由曲 読譜指導 パートリーダーによる各パートの音取りから全体の完成まで	○		○	【知】曲想と歌詞との関りについて理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をしている。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持っているか。 【主】合唱曲に興味・関心を持ち、主体的に・協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	6
3 学 期	6. 合唱祭の練習・自由曲 【知】曲想と歌詞との関りについて理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をしている。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持っているか。 【主】合唱曲に興味・関心を持ち、主体的に・協働的に取り組む。	①自由曲 ☆①各クラスごと読譜指導 ②各クラスごとの練習 パートリーダーを中心にパート練習、全体練習	○		○	【知】曲想と歌詞との関りについて理解している。創意工夫を生かした歌唱表現をしている。 【思】正しい発声に気を付け、リズム旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら知覚したことと感受したこととの関わりについて考えどのように歌うか表現意図を持っているか。 【主】合唱曲に興味・関心を持ち、主体的に・協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	4
	7. リズムアンサンブル 【知】正しいリズムの理解、それを手拍子表現できる。他者との調和を意識して、演奏する技能を身に付け表現できる。 【思】強弱、テンポ、テクスチャを知覚しそのように演奏するか表現位置を持っている。 【主】リズムパターンを理解し、他者とのアンサンブルを主体的・協働的に取り組む。	★クラッピング（手拍子）カルテット 第1番・第2番を用い、4パートに分けて、アンサンブルをする。	○			【知】正しいリズムの理解、それを手拍子表現できる。他者との調和を意識して、演奏する技能を身に付け表現できる。 【思】強弱、テンポ、テクスチャを知覚しそのように演奏するか表現位置を持っている。 【主】リズムパターンを理解し、他者とのアンサンブルを主体的・協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	6 合計 35

高等学校 令和7年度（1学年用）

教科 芸術

科目 美術 I

教科：芸術 科目：美術 I 単位数： 単位 1

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8組：笹田 宝誠 ）

使用教科書：（ 高校生の美術 1 【 日文 】 ）

- 教科 芸術 の目標：
- 【知識及び技能】 美術の基礎となる事項や造形的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門教科美術を学ぶ基盤となる資質・能力と美術を専門的に学ぼうとする態度を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】 美術の意義や創造活動を追求するための基礎となる美学や造形心理学などの諸理論を形や色彩、技法、材料や用具などに関する知識との関連を図りながら自分らしく表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に美術作品や文化財、作家などについて研究したり、文化的な視野に立った美術批評をしたりするなどして、美術や美術文化を尊重する態度を養う。

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時
			・	デ	映						
1 学 期	・自由な世界を描く（鉛筆画） 【知】造形的な特徴などをもとに、想像した世界を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思】心に浮かんだイメージをもとに発想を広げ、夢や想像の世界をあらわす。 【主】主体的に鉛筆のトーンを理解し、タッチを工夫しながら創造的に作品制作に取り組む。	・指導事項 ○鉛筆の種類の違いを説明し、鉛筆で表現できるトーンの違い理解させる。 ○光の方向と陰（影）を意識させ鉛筆画の中で立体感を表現させる。 ○タッチを工夫させ、物の質感表現を鉛筆で表現させる。 ・教材 B4ケントイラストレーションボード、鉛筆	○	○		○	【知】形やトーンなどが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、想像した世界を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思】夢や想像、自己を見つめて感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し、形や色、構図などについて考え、イメージを組み合わせるなど創造的な表現の構想を練っている。 【主】主体的に鉛筆のトーンの違いを捉え、画面の中での光の方向と陰（影）を意識することで物の立体感の表現に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・メッセージボードを作る 【知】メッセージを伝えるデザインに関心をもち、メッセージの内容や伝える相手などから主題を生成する。 【思】飾るものや使用方法を考え、形や材料を工夫してメッセージボードについて構想を練る。 【主】主体的に飾るものや使用目的について考え、形や色、構造を工夫してメッセージボードを制作する。	・指導事項 ○メッセージボードに関心をもち、飾るものや使う目的などから主題を生成させる。 ○安全面に配慮させ、正しい道具の使用方法を理解させる。 ○形や色、材料、構造などを工夫し、見通しをもって制作させる。 ○完成作品を鑑賞する。また、意図や工夫を感じ取らせながら、話し合いをさせる。 ・教材 教科書、白木のウェルカムボード、アクリル絵の具、鉛筆	○	○		○	【知】主体的にメッセージの内容や伝える相手について考え、効果的に内容を伝えるデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。 【思】飾るものや使用目的などから主題を生成し、形や色の組み合わせの効果やメッセージボードの機能などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主】主体的に飾るものや使用目的について考え、形や色、構造を工夫して、メッセージボードのデザインに取り組もうとしている。	○	○	○	15
3 学 期	・名画の続きを考える 【知】名画に関する背景や作家の情報を調べ、その名画に関する知識を深め、自分らしく制作する。 【思】名画の中にある作家独自の作風や技法を取り入れ、自分らしい表現を考える。 【主】主体的に感じ取ったことや創造したことなどをもとにして、名画の作品をアレンジした創造活動に取り組む。	・指導事項 ○名画が制作された背景や作家の情報を調べることで、美術に関する基礎知識を深めさせる。 ○名画の中の作家独自の表現方法に注目し、それを活かして自分らしい作品を制作させる。 ○名画をヒントとし、そこから豊かに創造を膨らませ、自分らしい独自の作品作りを実践させる。 ・教材 教科書、ケント紙ボード、アクリル絵の具、鉛筆	○	○		○	【知】名画が制作された背景や作家の情報を自主的に積極的に調べ、名画に関する知識を高めながら自身の作品作りに取り組んでいる。 【思】名画の中の作家独自の技法に注目し、それを模倣し自身の作品作りに生かしながら、表現方法を創意工夫して表している。 【主】名画をヒントにし、そこから自由に創造することで独自の世界観で作品作りに取り組んでいる。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教 科： 芸術 科 目： 美術 I 単位数： 単位 2

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8 組：笹田 宝誠）

使用教科書：（美術 1 【光村図書】）

教科 芸術	の目標：
【知識及び技能】	美術の基礎となる事項や造形的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門教科美術を学ぶ基盤となる資質・能力と美術を専門的に学ぼうとする態度を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	美術の意義や創造活動を追求するための基礎となる美学や造形心理学などの諸理論を形や色彩、技法、材料や用具などに関する知識との関連を図りながら自分らしく表現できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	主体的に美術作品や文化財、作家などについて研究したり、文化的な視野に立った美術批評をしたりするなどして、美術や美術文化を尊重する態度を養う。

科目 美術 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	・文化祭のポスターデザイン 【知】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわす。 【思】心に浮かんだイメージをもとに発想を広げ、文化祭らしいポスターとして表現する。 【主】主体的にポスターの役割を理解し、配色と構成を工夫しながら創造的に作品制作に取り組む。	・指導事項 ○イラストレーションだけでなく文字を工夫し表現することでも完成度の高いポスターデザインができることを理解させる。 ○ポスターデザインに必須なレタリングに工夫し表現することで、ポスターにおける文字情報の重要性を理解させる。 ・教材 教科書、A3セントイラストレーションボード、アクリル絵の具、鉛筆	○	○		○	【知】形や色などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、わかりやすく効果的な伝達のデザインを、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。 【思】伝える情報の内容や相手などから主題を生成し、単純化や省略、強調などの効果や、わかりやすさと美しさの調和などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 【主】主体的に誰に何を伝えるかを考え、わかりやすく効果的なポスターのデザインを工夫する表現の創造活動に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・パッケージデザイン 【知】形や色などが感情にもたらす効果を理解し、ターゲットを意識し美しいパッケージデザインを制作する。 【思】展開図から包むものの構造を理解し、自分らしいパッケージデザインの表現の構想を練る。 【主】主体的に想像、感じ取ったことや考えたことなどをもとにしたパッケージデザインの創造活動に取り組む。	・指導事項 ○年齢・性別などターゲットを意識しデザインをする。 ○用途に合わせた効果的な配色計画を行わせる。 ○あらわしたいイメージをもとに、材料や表現方法を工夫させパッケージを制作させる。 ・教材 教科書、ケント紙、アクリル絵の具、鉛筆、木工ボンド	○	○		○	【【知】形や色彩の性質やそれらが感情にもたらす効果、伝達の意図や目的に求められる造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 【思】伝達の意図や目的に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表している。 【主】伝達する内容や目的をパッケージデザインで表す表現の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	15
3 学 期	・オリジナル金屏風を制作する 【知】屏風の歴史、有名な作家等を調べ、屏風に関する知識を深め、自分らしく制作する。 【思】著名な屏風作品を参考にし、創造性を膨らませながら自分らしい表現の構想を練る。 【主】主体的に想像、感じ取ったことや考えたことなどをもとにした屏風の創造活動に取り組む。	・指導事項 ○屏風の歴史、作家を紹介することで、屏風作品に関する基礎知識を高め制作物に反映させる。 ○有名な屏風作品をヒントに自由に創造し、効果的な構図、配色を考えながら制作させる。 ○あらわしたいイメージをもとに、材料や表現方法を工夫させ金屏風を制作させる。 ・教材 教科書、金屏風、アクリル絵の具、鉛筆	○	○		○	【【知】屏風が制作された歴史や著名な作家の情報を自主的に調べ、屏風に関する基礎知識を高めながら自身の作品作りに取り組んでいる。 【思】材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫して創造的に表している。 【主】歴史的に有名な金屏風作品を参考にしながら、独創的な金屏風の表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 美術II

教 科： 芸術 科 目： 美術II 単位数： 単位 2

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（1～8組：笹田 宝誠 ）

使用教科書：（ 高校の美術2【 日本文教出版 】 ）

- 教科 芸術 の目標：
- 【知 識 及 び 技 能】美術の基礎となる事項や造形的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門教科美術を学ぶ基盤となる資質・能力と美術を専門的に学ぼうとする態度を養う。
- 【思考力、判断力、表現力等】美術の意義や創造活動を追求するための基礎となる美学や造形心理学などの諸理論を形や色彩、技法、材料や用具などに関する知識との関連を図りながら自分らしく表現できるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術作品や文化財、作家などについて研究したり、文化的な視野に立った美術批評をしたりするなどして、美術や美術文化を尊重する態度を養う。

科目 美術II の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追 求し、個性を生かして創造的に表 することができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸 活動に取り組み、配色と構成を 工夫しながら創造的に作品制作に 取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入 部で制作計画書を記述させ、見通 しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めること で、上手下手以外の美術の価値の 重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作 を勧め、個に寄り添った指導を行 う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点につ いて理解を深めるとともに、意図に応じて表 現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、 個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り 組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育 むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化 を尊重し、心豊かな生活や社会を創造してい こうとする。	○	○	○	10
2 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の 特性を生かすとともに、表現を工 夫し、目的や計画をもとに創造的 にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追 求し、個性を生かして創造的に表 することができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸 活動に取り組み、配色と構成を 工夫しながら創造的に作品制作に 取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入 部で制作計画書を記述させ、見通 しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めること で、上手下手以外の美術の価値の 重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作 を勧め、個に寄り添った指導を行 う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点につ いて理解を深めるとともに、意図に応じて表 現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、 個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り 組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育 むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化 を尊重し、心豊かな生活や社会を創造してい こうとする。	○	○	○	15
3 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の 特性を生かすとともに、表現を工 夫し、目的や計画をもとに創造的 にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追 求し、個性を生かして創造的に表 することができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸 活動に取り組み、配色と構成を 工夫しながら創造的に作品制作に 取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入 部で制作計画書を記述させ、見通 しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めること で、上手下手以外の美術の価値の 重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作 を勧め、個に寄り添った指導を行 う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点につ いて理解を深めるとともに、意図に応じて表 現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、 個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り 組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育 むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化 を尊重し、心豊かな生活や社会を創造してい こうとする。	○	○	○	10

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 美術II

教 科： 芸術 科 目： 美術II 単位数： 単位 2

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：（ 1 ～ 8 組：笹田 宝誠 ）

使用教科書：（ 高校の美術2【 日本文教出版 】 ）

教科 芸術	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	美術の基礎となる事項や造形的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門教科美術を学ぶ基盤となる資質・能力と美術を専門的に学ぼうとする態度を養う。
【思考力、判断力、表現力等】	美術の意義や創造活動を追求するための基礎となる美学や造形心理学などの諸理論を形や色彩、技法、材料や用具などに関する知識との関連を図りながら自分らしく表現できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】	主体的に美術作品や文化財、作家などについて研究したり、文化的な視野に立った美術批評をしたりするなどして、美術や美術文化を尊重する態度を養う。

科目 美術II の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵・ 彫	デ	映						
1 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、 、配色と構成を工夫しながら創造的に作品制作に取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入部で制作計画書を記述させ、見通しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めることで、上手下手以外の美術の価値の重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作を勧め、個に寄り添った指導を行う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していくこととする。	○	○	○	10
2 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、 、配色と構成を工夫しながら創造的に作品制作に取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入部で制作計画書を記述させ、見通しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めることで、上手下手以外の美術の価値の重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作を勧め、個に寄り添った指導を行う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していくこととする。	○	○	○	15
3 学 期	・自由制作 【知】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、表現を工夫し、目的や計画をもとに創造的にあらわす。 【思】主題に合った表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、 、配色と構成を工夫しながら創造的に作品制作に取り組む。	・指導事項 ○計画的に制作させるため、導入部で制作計画書を記述させ、見通しを持った作品作りを行う。 ○多様な表現方法を認めることで、上手下手以外の美術の価値の重要性を理解させる。 ○生徒自身の進路に合わせた制作を勧め、個に寄り添った指導を行う。 ・教材 教科書、端末、自由	○	○		○	【知】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求することができる。 【思】主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表そうとする。 【主】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していくこととする。	○	○	○	10

年間授業計画 新様式例

小川 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道Ⅰ

教 科： 芸術 科 目： 書道Ⅰ 単位数： 1 単位

対象学年組：第 1 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：小西優輝・古賀充代

使用教科書：（ 光村図書 書Ⅰ ）

教科 芸術	の目標：
【知識及び技能】	日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。
【思考力、判断力、表現力等】	古典、古筆等の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
【学びに向かう力、人間性等】	漢字の書体の変遷や仮名、漢字仮名交じり書の成立、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に書道の幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。

科目 書道Ⅰ	の目標：
【知識及び技能】	・知識 〔表現〕古典・古筆等の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。
【思考力、判断力、表現力等】	〔表現〕古典・古筆等の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 〔鑑賞〕古典・古筆等の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
【学びに向かう力、人間性等】	漢字の書体の変遷や仮名、漢字仮名交じり書の成立、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に書道の幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 数 当 時	
			漢 仮	漢	仮							
1 学 期	○単元 漢字の書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解させる。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解させる。 ・技能 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 〔楷書〕 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 上記古典を学び、様々な書体・書風、表現を学ばせる。 ・教材 光村図書 書Ⅰ				○	○		○	○	○	16
2 学 期	○単元 漢字の書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・指導事項 〔楷書〕雁塔聖教序 顔氏家廟碑 牛嶽造像記 鄭義下碑 〔行書〕 蘭亭序 争座位文稿 蜀素帖 風信帖 上記古典を学び、様々な書体・書風、表現を学ばせる。 〔創作〕 これまで学んだ書体・書風を生かし、生徒各自が選んだ漢文(熟語等も含む)を作品化させる。また様々な創作例を鑑賞し、作品に応用させる。 ・教材 光村図書 書Ⅰ				○	○		○	○	○	20
	○単元 仮名の書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解させる。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解させる。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 仮名の成立と種類についての説明。時代背景等、特徴的な筆遣いを理解させる。仮名の基本的な筆遣い(横の線、縦の線、転折、円運動、結びなど)を指導。 平仮名・変体仮名の指導。 ・教材 光村図書 書Ⅰ				○	○		○	○	○	6

3 学 期	○単元 草書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解させる。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解させる。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 草書 上記古典を学び、様々な書風、表現を学ばせる。 〔創作〕 これまで学んだ仮名の書風を生かし、生徒各自が選んだ和歌を作品化させる。また様々な創作例を鑑賞し、作品に応用させる。 ・教材 光村図書 書 I	○ ○	【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔評価方法〕 【知識及び技能】：机間巡視、提出物により判断する。 【思考力、判断力、表現力等】：行動観察や質疑、提出物の内容により判断する。 【学びに向かう力、人間性等】：授業への積極的な参加から判断する。	○ ○ ○	14
	○単元 漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解させる。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の成立について理解させる。 ・技能 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を活かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 漢字仮名交じりの書の特徴、歴史について指導。漢字と仮名の調和や自由な紙面構成などの表現の特徴を理解させる。また用具・用材の違いによる表現の違いも理解させる。 創作を通して、作品制作の楽しさ、難しさ、表現の多様さを感じさせる。 心に響く言葉、好きな言葉を素材に作品制作させる。 作品鑑賞会により、生徒相互の意見を述べさせ、評価させる。	○ ○	【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、漢字仮名交じりの書の成立について理解している。 ・技能 目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を活かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 〔鑑賞〕創造された作品の価値とその根拠、生活や社会における書の効用について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔評価方法〕 【知識及び技能】：机間巡視、提出物により判断する。 【思考力、判断力、表現力等】：行動観察や質疑、提出物の内容により判断する。 【学びに向かう力、人間性等】：授業への積極的な参加から判断する。	○ ○ ○	6
					合計	62

年間授業計画 新様式例

小川 高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教 科： 芸術 科 目： 書道 I 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 8 組

教科担当者：小西優輝・古賀充代

使用教科書：（ 光村図書 書 I ）

教科 芸術	の目標：
【知 識 及 び 技 能】	日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字仮名の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。
【思考力、判断力、表現力等】	古典、古筆等の価値と根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
【学びに向かう力、人間性等】	漢字の書体の変遷や仮名、漢字仮名交じり書の成立、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、主体的に書道の幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。
科目 書道 I	の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・知識 〔表現〕古典・古筆等の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解する。	〔表現〕古典・古筆等の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。 〔鑑賞〕古典・古筆等の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。	〔表現〕主体的に書道の幅広い表現の学習活動に取り組む。 〔鑑賞〕主体的に書道の幅広い鑑賞の学習活動に取り組む。
・技能 古典・古筆等に基づく基本的な用筆・運筆の技		

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 数 当 時
			漢 仮	漢	仮						
1 学 期	○単元 仮名の書 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解させる。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解させる。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 仮名の成立と種類についての説明。時代背景等、特徴的な筆遣いを理解させる。仮名の基本的な筆遣い（横の線、縦の線、転折、円運動、結びなど）を指導 平仮名・変体仮名の指導。 蓬莱切 高野切第三種 継色紙 上記古典を学び、様々な書風、表現を学ばせる。 〔創作〕 これまで学んだ仮名の書風を生かし、生徒各自が選んだ和歌を作品化させる。また様々な創作例を鑑賞し、作品に応用させる。 ・教材 光村図書 書 I				○ ○	【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔評価方法〕 【知識及び技能】：机間巡視、提出物により判断する。 【思考力、判断力、表現力等】：行動観察や質疑、提出物の内容により判断する。 【学びに向かう力、人間性等】：授業への積極的な参加から判断する。	○	○	○	20
2 学 期	○単元 漢字の学習 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	・指導事項 〔篆書〕 甲骨文 金文 石鼓文 泰山刻石 〔隸書〕 乙瑛碑 曹全碑 礼器碑 〔草書〕 真草千字文 書譜 〔行書〕 争座位稿 蜀素帖 風信帖 上記古典を学び、様々な書体・書風、表現を学ばせる。 〔創作〕 これまで学んだ書体・書風を生かし、生徒各自が選んだ漢文（熟語等も含む）を作品化させる。また様々な創作例を鑑賞し、作品に応用させる。 ・教材 光村図書 書 I				○ ○	【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔評価方法〕 【知識及び技能】：机間巡視、提出物により判断する。 【思考力、判断力、表現力等】：行動観察や質疑、提出物の内容により判断する。 【学びに向かう力、人間性等】：授業への積極的な参加から判断する。	○	○	○	26
	○単元 篆刻の学習 【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕篆書を印材の中にいかに美しく展開するかを考える 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、印の歴史と落款の意味を理解させる。 ・技能 印刀を使って表現したい篆書を石を彫る技術を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕篆書を篆刻に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫させる。 〔鑑賞〕印の誕生した経緯や時代ごとの役割を理解し、それに即した美しさを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に篆刻の幅広い表現の学習活動に取り組ませる。 〔鑑賞〕主体的に篆刻の幅広い鑑賞の学習活動に取り組ませる。	・指導事項 印の歴史と書道作品の落款の意味を説明し、自分の印を作成する目的を明確にして作成することを指導。 印面を作る 印稿 布字 印刻 補刀 ・教材 光村図書 書 I				○ ○	【知識及び技能】 ・知識 〔表現〕線質や書風、用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕線質、字形、構成法の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化について理解している。 ・技能 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 〔表現〕仮名の古筆や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕仮名の古筆の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 〔表現〕主体的に仮名の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 〔評価方法〕 【知識及び技能】：机間巡視、提出物により判断する。 【思考力、判断力、表現力等】：行動観察や質疑、提出物の内容により判断する。 【学びに向かう力、人間性等】：授業への積極的な参加から判断する。	○	○	○	10

